

地域社会との緊密な連携を築く

SDGsを意識した、地域・家庭と協働する持続可能なPTA活動

北名古屋市立師勝西小学校PTA

1 はじめに

師勝西小学校は、北名古屋市の北部に位置し、昭和51年に開校し、今年度48年目を迎える。令和5年度の児童数は655名、学級数25（含む特別支援学級4）、PTA会員511世帯でスタートした。学校は最寄り駅から徒歩8分の位置にあり、校区内には大きなマンションやショッピングセンターもある。市内では比較的都会の雰囲気のある学校である。



【北名古屋市立師勝西小学校】

2 研究への取組

(1) PTA組織と活動内容

本校のPTAは、会長、副会長、庶務、会計、会計監査の役員と、学年委員、地区委員を委員とする、研修、広報、安全、図書の4つの委員会から組織されている。研修委員会は、PTA社会見学の企画やベルマーク集計活動への参加、広報委員会は、学校行事を中心とした活動を各家庭に紹介するPTA新聞の作成やホームページ写真の撮影、安全委員会は年間12回のあいさつ運動でのあいさつ推進活動や自転車教室の補助、図書委員会は、絵本の読み聞かせや放送による絵本の朗読活動を行っている。こうした活動について、PTA役員を中心に、PTA委員が学校・家庭・地域とで協力し合いながら活動することで、家庭教育の充実に努めている。

(2) 学校運営協議会による学校支援ボランティアの活動

本校では平成27年度より、学校運営協議会を立ち上げ、地域や保護者の願いや思いを学校教育に反映させ、地域とともに子どもたちの教育にあたっている。本校の学校運営協議会は、会長と地域学校協働推進委員に加えて、地域と家庭の学校支援ボランティアで構成されている。学校支援ボランティアは、登校時の見守りボランティア、図書整備ボランティア、花壇整備ボランティア、植栽ボランティアなどの地域人材による登録ボランティアなどがある。また、Microsoft社のフォームズシステムを利用して、参加可能なボランティアをPTAから随時募集している。調理実習、ミシン、水泳などの授業で多くのボランティアが参加している。参加可能な人がその都度参加するボランティア募集の形をとったことで、より持続可能な地域・家庭との協働ができるようになった。

(3) 研究のねらい

本校では令和4年度より、SDGs学習に取り組み始めた。昨年度は、SDGsの調べ学習に主眼を置いて取り組んだ。その中で、実際にSDGsの17の目標を達成し、持続可能にしていくためには、学校だけでなく、地域・家庭との緊密な連携が必須であることが見えてきた。よりSDGs学習を深めるために、今年度最初の学校運営協議会で、地域学校協働推進委員の方から様々な助言をいただいた。SDGsをきっかけに、より地域と密着したPTA活動と考え、本研究を進めることとした。

3 実践活動の概要

(1) SDGs目標1・2・7・11・12・17の実践

① ダンボールコンポストによる協働（目標7・12）

学校運営協議会委員からの助言を受け、今年度からダンボールコンポストづくりを始めた。家庭ごみの中で一番多く出るのが生ごみであり、生ごみは可燃ごみ袋に大変多く含まれており、これらの収集や処理に大量のエネルギーを消費し、環境悪化の一因となっている。この生ごみを、「もし、リサイクルできたら？」の観点から、ごみ減量や環境への負荷を軽減することにつながると考えた（目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」）。この活動を持続させるために、考えに賛同していただけるPTAの方をフォームズシステムで募り、この活動を家庭でできるように依頼した。短い期間（約3か月間）での活動をお願いしたり、学校園や花壇の肥料代に使っている費用をダンボールコンポストのキット（基材やネットなど）代に代用し、3か月間でできた肥料を学校園や花壇の肥料の一部に使用したりすることで、持続可能な活動になるように工夫した。この活動は、各家庭の食品ロスを失くすことにもつながっており、学校でも給食の残菜や使用済みのダンボールをダンボールコンポストに使用している（目標12「つくる責任 つかう責任」）。



【ダンボールコンポスト】

② 児童館・自治会との協働（目標1・2・11・17）

校区内の児童館と自治会主催で、今年度より「子ども食堂」が始まった（目標1「貧困をなくそう」目標2「飢餓をなくそう」）。本校児童やPTAも多数参加している。食堂で使用する食材は、近くの農園で栽培している野菜等である。先述したダンボールコンポストでできた肥料の残りをこの農園で使用することで、学校と地域・家庭との連携を図っており、今後も種や苗の提供などで関係をより深くする計画を立てている（目標11「住み続けられるまちづくりを」目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」）。



【子ども食堂】

(2) SDGs 目標 4・15 の実践

① 校区内の公園と学校の移植活動 (目標 4・15)

本校では、平成 30 年度より地域植栽ボランティア若葉会の方と協働活動「花いっぱい運動」を行っている (目標 15「陸の豊かさを守ろう」)。活動開始のきっかけは、校区内の鹿田第一公園の花壇を若葉会の方が長年整備してきたが、



【若葉会との植栽活動】

「花壇に入る」「花壇の花が折れる」などの悲しい出来事が毎年起きていたことに由来する。地域の方と児童が共同で花を植え、育てることで、植物を大切にすることを育むことができると考え、この活動が始まった。12 月に本校児童と若葉会の方で花を公園の花壇に植え、3 月にプランターに移して学校に花を移動させ、卒業式当日の門出式の花道を花いっぱいのプランターで彩っている。今では、公園の花壇が踏み荒らされることもなくなった。若葉会の方には、使用した土の再利用の仕方も児童に対して教えていただき、学びの場にもなっている (目標 4「質の高い教育をみんなに」)。

② 集いの池の整備 (目標 4・15)

本校運動場南には、「集いの池」がある。平成 12 年度に P T A 記念事業として造られた。本校は比較的自然の少ない地域に位置するが、この池が自然と身近になる憩いの場所、そして児童にとっては学びの場所になっていた。しかし、近年は感染症蔓延や多忙化の影響を受け、池の管理がずさんになっており、草が生い茂り、児童にとっても危ない場所になってしまっていた。そこで、P T A と地域の方で構成する「おやじの会」の協力を得て、令和 4 年度から池の再整備を行っている。まず、生い茂った草を除草 (水草は残す) し、敷石用に砂利を敷いた。水が腐らないように浄化槽ポンプを設置した。今年度春にはヤゴやトンボも観られるようになり、メダカの稚魚も放流した (目標 15「陸の豊かさを守ろう」)。これまでの歴代の本校 P T A の思いをつなぎ、地域の力を借りて、児童にとって安全な学びの場へと変わろうとしている (目標 4「質の高い教育をみんなに」)。



【集いの池 整備前】



【集いの池 整備後】

(3) SDGs 目標 4・16 の実践

本校の P T A 研修委員会が行っているベルマーク回収で集めたポイントは、これまで主に学校備品購入に充てていた (目標 4「質の高い教

育をみんなに」)。特にコロナ禍でボランティア活動が制限されていた令和2年度からの3年間は、「自宅にしながらできるボランティア活動」として本校でも継続され、令和4年度は大判プリンタを購入することができた。備品を購入すると、購入額の1割が国の内外でハンディを背負いながら学んでいる子どもたちに支援される仕組み（目標16「平和と公正をすべての人に」）であり、本校PTA研修委員会の取組が自動的に社会貢献にもつながっている。



【ベルマーク集計活動】

(4) SDGs 目標13の実践

登下校の見守りボランティアは児童が安全に登校するための手助けを行っている。学校周辺は交通量が多いが、車と児童との接触事故防止につながっている。近年、夏季に天候が急激に変化し、下校時にゲリラ豪雨に遭うことも多くなってきたが、通学路での見守りボランティアの存在は児童や保護者に安心感を与えている（目標13「気候変動に具体的な対策を」）。



【登下校の見守り】

(5) SDGs 目標10の実践

本校では、PTA安全委員を中心に「さわやかあいさつDay」を校門付近で年6回、PTA地区委員を中心に「地域あいさつ運動」を年6回実施している（目標10「人や国の不平等をなくそう」）。よりあいさつを活性化するために、児童にデザインを公募し、地域あいさつ運動でPTAが使用するたすきを一新した。地域・家庭と学校が手を合わせ、元気なあいさつで楽しい学校生活を始めることができるように努めている。



【新しいたすき】

4 おわりに

これまでのPTA活動はPTA役員やPTA実行委員だけで活動していたが、フォームズシステムの利用でボランティア募集が容易になり、より多くのPTAや地域の方が学校活動に参加していただけるようになった。SDGsをきっかけに、地域との連携が深まったPTA活動ができたと考える。まだ課題も残っているが、PTA活動がより楽しく持続可能なPTA活動になり、負担感も減ったのではないかと考える。今後も地域社会との緊密な連携を築き、SDGsを意識し、地域・家庭と協働した活動を続けていきたい。